

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「ほめるときのポイント5」

- 1 名前を呼んでほめる（特定化）
自分の名前は「ありがとう」と同じくらい心地よい音である。名前を呼ばれないと、「自分がほめられている」と認知できない子どもがいる。そこで、ほめるときに、「〇〇さん」と子どもの名前を呼んで、注意を促してからほめると伝わり方が変わる。
- 2 すぐほめる（即時性）
子どもが行動を起こした直後にほめる。ワーキングメモリに課題のある子どもは、自分がしたことを忘れてしまうので、「あとでほめよう」は効果がない。必ずすぐ「その場で」「その瞬間に」ほめる。素早く・タイミングを逃がさない。
- 3 具体的にほめる（明示性）
「大きな声で発表ができたね」「こぼさないで盛り付けできたね」「細かい線を描いたね」など、具体的に何がよかったのか伝わるようにほめる。「すごい」「えらい」というほめ言葉は伝わらないことが多い。
- 4 努力している過程をほめる（事実の指摘）
結果よりも、子どもが頑張っている状況・行動をそのまま言葉にしてほめる。「書けたね」よりも「書けてる、書けてる」と笑顔でリズムよく繰り返す。それだけでほめ言葉になる。「座ってる、座ってる」など、子どもをたくさんほめることができる。
- 5 やってほしい行動（望ましい行動）を言葉にする（言語化）
問題行動が多い子どもには、どうしても「××してはダメ」などと注意や叱ることが多くなる。子どもには最後のフレーズ「××」だけが強く入力される。指導者がやってほしい行動を言語化して入力する。

人は同じことを3回ほめられると、その気になると言われています。複数の人でほめましょう。はっきり聞こえる声、優しい表情、温もりのある声のトーン、身振り・手振り、ハイタッチ、アイコンタクト等、子どもの実態に応じたほめ方が大切です。大好きな人にほめられると、更に効果は上がります。



とれたて直送便



「県内の中学生152人に聞きました！好きな教科・苦手な教科」さきがけこども新聞より

〈好きな教科〉

- 1 保健体育
「体を動かすのが好き。楽しい」
- 2 社会
「昔の人の行動や物、建築について考えるのが好き」
- 3 理科
「実験が楽しい」「なんで？を追究するのが面白い」
- 4 数学
「計算問題を解くのが楽しい」
- 5 英語
「文法が分かれば、後は単語を覚えられる」



〈苦手な教科〉

- 1 英語
「文法や単語を覚えるのが難しい」
- 2 数学
「計算が苦手」「発展・応用問題がなかなか解けない」
- 3 理科
「化学反応式が覚えられない。難しい」
- 4 国語
「人物の心情を読み解いたり、言葉の意味が苦手」
- 5 社会
「覚えることが多い」



「英語の勉強をする時、英語の音楽をかける」「分からないことはすぐ聞く」「どの教科も主体的に取り組む態度が大切」「大切な用語は自分の言葉でまとめる」など、生徒によるオスズメ勉強法も載っています。好きな教科の理由に、「先生の教え方が面白い」「先生の授業が楽しかった、分かりやすかった」と、多数の生徒から答えてもらえるようにしたいものです。